

今日のトピック 最近の指標から見る欧州経済（2016年5月）

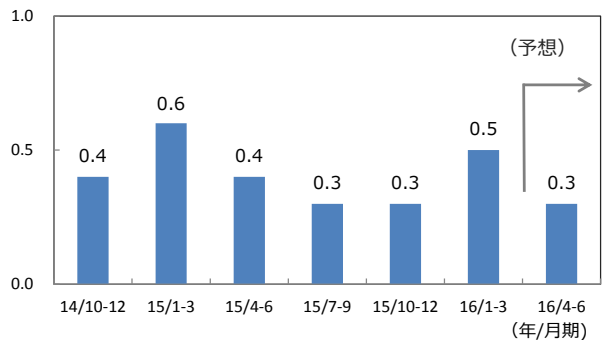
緩やかな景気拡大持続が金融市場をサポート

ポイント1 緩やかな景気拡大が持続

1-3月期GDPは0.5%増

- 2016年1-3月期のユーロ圏の実質GDP成長率は前期比 + 0.5%となりました（年率換算は + 2.1%）。1-3月期は、世界の金融市場が動揺するなど厳しい環境でしたが、消費を中心に内需が増加し、成長率は前期比で拡大しました。
- 欧州景気は、金融緩和政策や難民対策の財政支出等を背景に、失業率の低下が継続するなど、底堅い雇用による消費に支えられています。今後も緩やかな景気拡大が持続する見込みです。

(%) 実質GDP成長率（前期比）



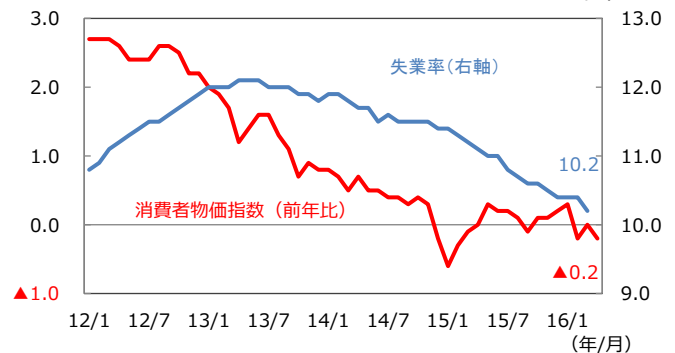
(注) データは2014年10-12月期～2016年4-6月期。
2016年4-6月期は三井住友アセットマネジメントの予想。
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 ECBは緩和政策を維持

物価は低水準が継続

- 4月のユーロ圏の消費者物価上昇率は、前年同月比▲0.2%と、物価の低迷を示しました。緩やかな景気拡大ペースや原油価格下落の影響から、今後も低水準が続くと予想します。
- 欧州中央銀行（ECB）は、3月に決定した追加金融政策の効果を見極めるため、当面金融政策を据え置くものとみられますが、物価が目標とする2%を大きく下回っているため、状況に応じて年後半にも追加緩和を行う可能性があります。

(%) 失業率と消費者物価指数



(注) 失業率のデータは2012年1月～2016年3月。
消費者物価指数のデータは2012年1月～2016年4月。
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 政治リスクが控えるが、金融緩和と財政拡大で対応可能

- 欧州景気には、6月23日に国民投票が行われる英国の欧州連合（EU）離脱問題という「政治リスク」が控えています。英国のEU離脱の場合、金融市場の動揺が高まり、景気の足を引っ張る可能性には注意が必要です。
- ただし、リスクが顕在化した場合でも、ECBの金融緩和の強化や、ユーロ圏各国による財政支出拡大により、景気底割れは回避できるとみられます。欧州景気の安定成長はグローバルな金融市場のサポート要因となることが期待されます。

ここもチェック! 2016年4月26日 最近の指標から見る欧州経済（2016年4月） 2016年4月21日 「Brexit」英国のEU離脱（欧州）

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。